千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第7週（2/12-2/18）の発生は？

1　定点報告対象疾患（五類感染症）

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

報告のあった定点数	7週	6週	5週	4週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	28	27	28	28
基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市 注意報	2/12-2/18 7週	2/5-2/11 6週	1/29-2/4 5週	1/22-1/28 4週	千葉県 2/5-2/11 6週
小児科	RSウイルス感染症	○	5 0.28	3 0.17	2 0.11	0 0.00	36 0.27
	咽頭結膜熱		0 0.00	2 0.11	0 0.00	2 0.11	21 0.16
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		33 1.83	36 2.00	52 2.89	23 1.28	392 2.90
	感染性胃腸炎		59 3.28	62 3.44	90 5.00	94 5.22	528 3.91
	水痘		2 0.11	3 0.17	3 0.17	2 0.11	17 0.13
	手足口病		1 0.06	0 0.00	1 0.06	1 0.06	8 0.06
	伝染性紅斑		1 0.06	0 0.00	0 0.00	2 0.11	2 0.01
	突発性発しん		8 0.44	7 0.39	5 0.28	5 0.28	25 0.19
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	流行性耳下腺炎		1 0.06	1 0.06	0 0.00	0 0.00	8 0.06
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）	↓↓★	686 24.50	1,383 51.22	1,806 64.50	1,619 57.82	10,739 50.42
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	5 1.00	0 0.00	5 1.00	21 0.60
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	1 1.00	1 1.00	0 0.00	2 0.22
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2　全数報告対象疾患（7件）

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	男性	60歳代	IGRA検査等	A型肝炎	男性	30歳代	血清IgM抗体の検出
結核	男性	80歳代	IGRA検査等	A型肝炎	男性	40歳代	血清IgM抗体の検出
腸管出血性大腸菌感染症	男性	70歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認	百日咳	女性	30歳代	血清IgM抗体の検出
				百日咳	女性	80歳代	血清IgG抗体の検出

・第7週は、　結核2件（26）、腸管出血性大腸菌感染症1件（1）、A型肝炎2件（3）、百日咳2件（5）の報告があった。

※　（）内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

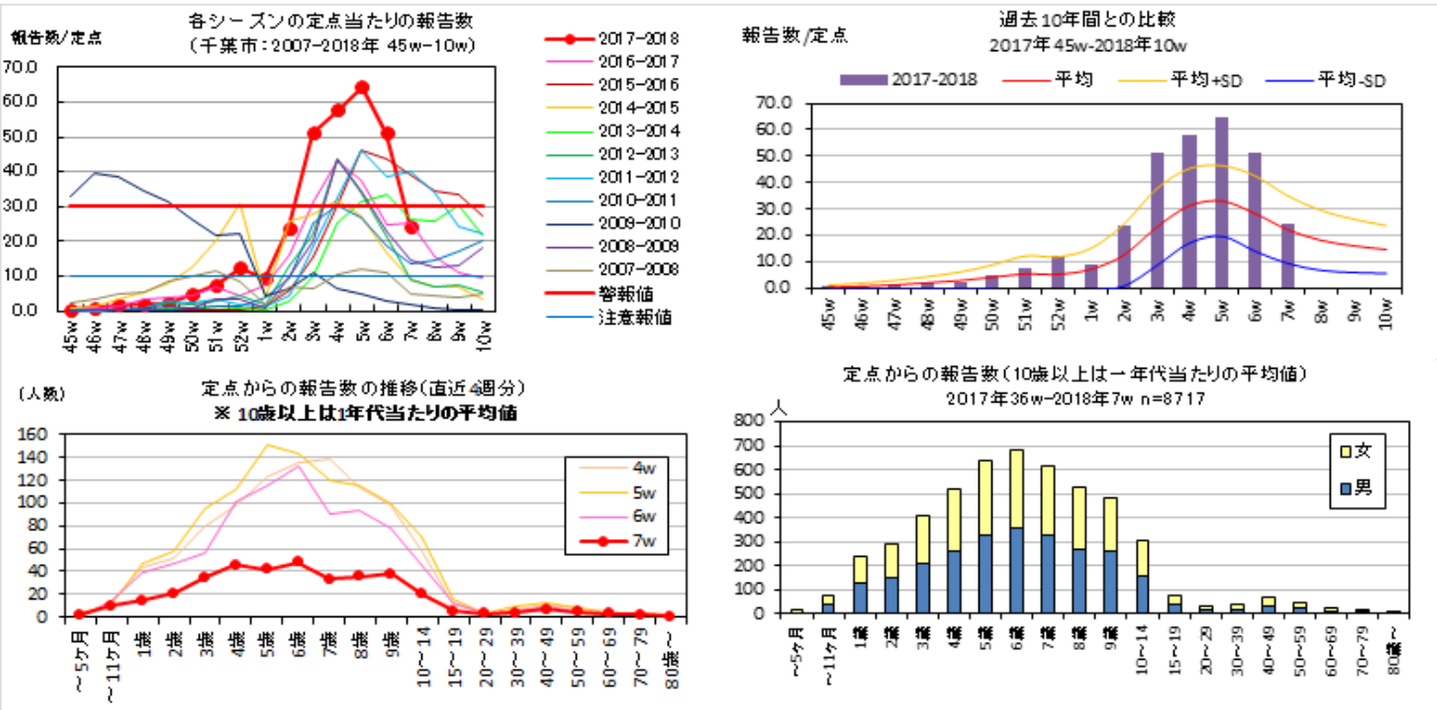
定点当たり報告数　第7週のコメント

＜RSウイルス感染症＞前週より増加し0.28となった。過去10年の同時期と比べるとやや多め。
＜インフルエンザ＞前週より大幅に減少し24.50となり、流行発生警報開始基準値を下回った。流行発生警報終息基準値は上回っている。過去10年の同時期と比べるとやや多め。

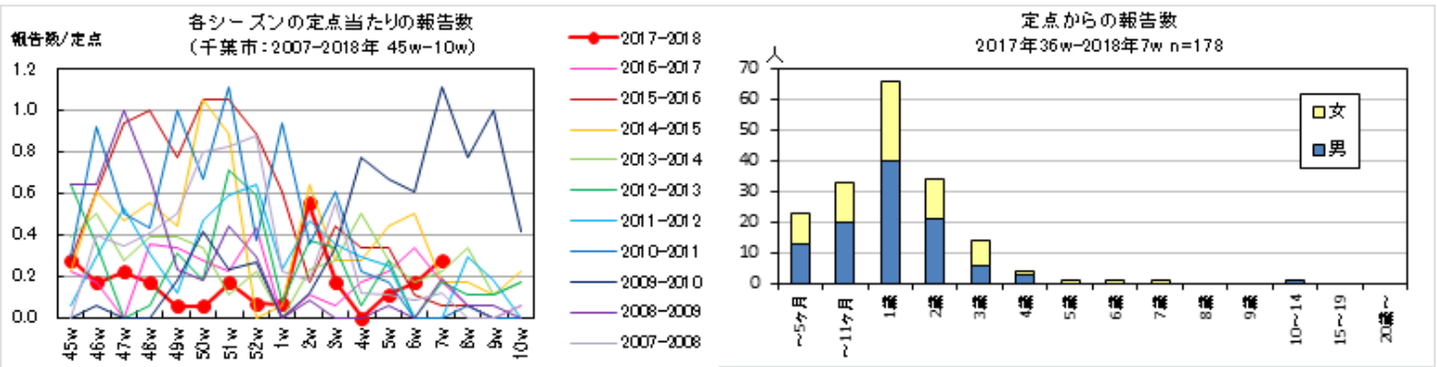
■ トピック ■

＜インフルエンザ＞

全国レベルの第6週は前週より減少しましたが、流行発生警報開始基準値（30.0/定点）を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では高知県、山口県、大分県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2018年第7週は前週より更に減少し24.50となり、流行発生警報開始基準値を下回りましたが、流行発生警報終息基準値（10.0/定点）は上回っています。過去10年の同時期と比べるとやや多めとなりました。 区別の発生状況は、中央区（32.6/定点）で流行発生警報開始基準値を上回ったまま最多で、同区の40歳代で最多、一年代当たりでは8歳で最も多く発生報告がありました。その他の区は全て流行発生警報終息基準値を上回っています。型別迅速診断結果では、第7週はA型が15.0%、B型が72.3%となっており、B型が7割以上を占めたままとなっています。今シーズンである2017年第36週から2018年第7週までの累積報告数（n=8717）によると、性別では男性が50.0%（4356名）、女性が50.0%（4361名）で、年齢階級別の一年代当たりでは6歳（7.8%：679名）、5歳（7.3%：638名）、7歳（7.0%：614名）の順に多くなっており、20歳未満は全体の73.0%、10歳未満は全体の51.4%となっています。



第7週	市全体	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区
基準値超過	終息	警報	終息	終息	終息	終息	終息
過去10年の同時期との比較	やや多め	やや多め	多め	多め	多め	多め	やや多め
昨年の同時期との比較	少ない	少ない	少ない	少ない	多い	少ない	多い

＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの第6週は、過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では徳島県、北海道、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市は2018年第5週から連続して増加しており、第7週は0.28となり、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなりました。 区別の発生状況は、緑区（0.75/定点）で最多で、同区の6～11か月、1歳及び3歳で発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第7週までの累積報告数（n=178）によると、性別では男性が58.4%（104名）、女性が41.6%（74名）で、年齢階級別では1歳（37.1%：66名）、2歳（19.1%：34名）、6～11か月（18.5%：33名）の順に多くなっています。